

扇小レポート 862 音楽「？」

音楽室近くの廊下に貼ってあります。

扇っ子から生まれた「？」の、答えのようです。

シャトルランの音階や、曲の手拍子について、勉強になります。

 どうしてシャトルランは
なんて？♪ドレミファソ～』なの？？

学校のシャトルランで流れる「ドレミファソ」みたいな音、気になりますよね。あれは、実は“音楽”というより

「ベース...カー」なんです。

最初はゆっくり♪ド・レ・ミ・ファ・ソ～

くらいの間隔ですが、だんだんテンポが速くなります。

その音に合わせて「このタイミングで最後まで行く」というルールなので、誰でも同じ条件で測れるようになっています。

しかも、単純な「ピッピッ」や「タンタン」よりも

- ・聞き取りやすい
- ・体育館でも外でも響きやすい
- ・リズムをつかみやすい
- ・記憶していても、次のタイミングが分かりやすい

という理由で、音階の音が使われています。

最初「金輪じゃん！！」⇒

途中「まだいける！！」⇒後半「ドレミ早すぎ！！」

ってなるのには、ちゃんと計算されているんですよ。

ちなみにシャトルは、もともと海外で作られた持久力テストで「ビーブテスト」とも呼ばれています。

日本では学校の体育、あの曲調が「♪ドレミファソ～」が定番しました。



『気球にのってどこまでも』に
どうして手拍子が入っているの？？

実は・・・

気球にのってどこまでもの手拍子は、もともとの楽譜に入っていたわけではなく、学校や合唱団で歌われる中で少しずつ広まった演出の1つです。この曲は、気球に乗って空高く進んでいくワクワク感や仲間と一緒にどこまでも進む楽しさを表現しています。そこで手拍子を入れることで、

- ・リズムを感じやすくなる
- ・歌っている人の一体感が生まれる
- ・聴いている人も楽しい気持ちになる
- ・気球が軽やかに進む感じを表現できる

という効果があります。

音楽会などは、手拍子が入ると見た目にも変化が出て、会場の雰囲気明るくなるのでよくこの手拍子が入ります。

「手拍子は、みんなの心を一つにして」

気球がどこまでも進んでいく楽しさを表しているんですね。

ちなみに、合唱の手拍子は単なる飾りではなく、「歌声以外の音も使って曲の気持ちを表現する」という音楽の工夫の一つです。手拍子を入れる場合は、ずれてしまうと合唱の盛り上がり下がってしまうので、みんなで心を合わせてピタッと合うようによい音でたたいていきましょう！



音楽の授業でも「？」が出ること、とっても嬉しいです。